

助成年度：平成 27 年度

[所属] 大阪大学大学院 工学研究科

[役職] 助教

[氏名] 松本 邦彦

[課題]

地域づくりの実績に乏しい都市における文化的景観の保存活用の取り組みに関する研究

[内容]

わが国における文化的景観保護制度の開始から 12 年が経過し、全国で重要文化的景観に 50 件が選定され、その数は着実に増加している。文化的景観保護制度は、地域の状況に応じた保護方を講じられる自由度の高い制度である一方、選定後の自治体及び地域独自の保存活用の取り組みが、保存活用の成否に大きく影響すると考えられる。一部の自治体は、選定以前からの地域づくりの実績を活かし、また既存の活動組織を巻き込んだ保存活用の体制を構築できるが、過去に目立った地域づくりの実績が十分でない場合には独自の取り組みが困難になるとも予想されるが、その状況や要因解明は十分ではない。

そこで本研究では、既選定自治体の計画策定以前の地域づくりの取り組みや市民参加の状況を明らかにしたうえで、計画書記載の保存体制を構成する活動組織の現状や、計画書には位置づけられていないその他活動組織の保全活用の活動への関わりを明らかにした。選定済み 47 地区を有する自治体担当部署に対するアンケート調査を実施した。

自治体は地域景観の価値明確化を主としながら、住民主体まちづくり促進や外部評価獲得も目的とするなど自治体により差があるが、選定により一定程度達成できたと認識している。

選定に向けた取り組みの中で、普及啓発に関する活動実施は多くなっているが、生業の継承・後継者育成の成果は不十分であり、今後の課題となっている。自治体担当者は住民の保存意識醸成や主体的参加を課題として認識し、これらは過去の地域づくり実績の乏しさ等に一定程度起因しており、選定後のまちづくり展開を考える上でも選定を目指す自治体に対する支援等が求められる状況にあることが明らかになった。